

新しいものを生み出す力に

専門家に聞く空想の効果

「みなさんが思っている以上に、空想は生きていく上で大切な力」と話すのは、東京大学大学院の教授で、脳と言葉について研究する酒井邦嘉さんです。中高生に向けて、空想する時間を意識的に持ってほしいと呼びかけます。



酒井邦嘉さん
©朝日新聞社

脳が活発化し創造力高める

私たちの脳には日々、読んだり聞いたりした情報が入ってきます(入力)。その情報を理解し、書いたり話したりすることで、情報を出しています(出力)。知らない言葉や体験していないものなどが入ってくると、「自分なりに『こうじゃないか?』と想像し、理解した上で、伝えたい形に組み立てて出力している」と酒井さんは説明します。

ありえないものを脳の中で仮想的につくる空想は「情報の入力や出力にもしぼられず、何もなくてもできる」と酒井さん。「空を飛べたら、どんな景色が見えるかな?」などと考えるのは「想像(イマジネーション)」と「創造(クリエイション)」の両方にまたがり、脳が活発に動いているといいます。

人とやりとりをするときに出る言葉を「外

言^{げん}」といいます。一方、空想のように自分の頭の中で考えるときに出る言葉を「内言^{ないげん}」と呼びます。酒井さんは「自由に考える力は、自分の心の動きを言語化する内言に支えられている」と話します。

ありえないようなことを考えて、何の役に立つの?と思う人もいるかもしれませんが、「人類の進歩につながるような考え方や発明は、空想から生み出されるといっても、過言ではありません。」「人間が火星に行けたら」というのは空想ですが、同じような空想をして、人間は月まで行くことができました。「作家や科学者などになりたいと思っている人はなおさら、空想する力が求められます」

SNSから離れ考える時間を

インターネットなどで調べれば、すぐに答えが得られるような現代は「空想がしにくい

時代になっている」と酒井さんは心配します。「いかに頭を使わず、効率的にできるかに重きが置かれているように感じます。それでは、新しいものを生み出せません」

空想する時間をつくるためには、長時間見続けてしまいがちなSNSなどを遠ざけることも必要です。目の前のことに取り組んでいるだけでは、他の人が考えないようなアイデアを思いつけないからです。空想のきっかけになるものとして、すすめるのは「本を読むこと」。作者が描いた世界を自分の体験としてとらえ、考えをめぐらせてみましょう。

「将来、自分はどんな大人になるんだろう」と考えることも、空想です。思い描いた未来を実現するためには、どうしたらいいのかを具体的に考えたり、自分なりに調べたりすることが大切です。「空想は、好奇心をかきたてるきっかけにもなるのです」